



貧困や不平等をなくし、教育の普及や健康の増進を図り、経済成長と環境保全の両立を実現する——。国連は、17の分野で2030年に向けた「持続可能な開発目標(SDGs)」を掲げています。朝日新聞社は、SDGsに貢献する学生や若手研究者らの活動を応援するために「大学 SDGs ACTION! AWARDS」を創設。3月10日、最終選考会が有楽町朝日ホールで開催されました。

SDGsの取り組みスタート企業①  
住友金属鉱山  
常务執行役員 浅井宏行さん

地元と共に、社会と共に持続可能なビジネスで貢献を



SDGsの取り組みスタート企業②  
NTTドコモ  
CSR部第二CSR担当課長 福田由美さん  
プラットフォームビジネス推進部 青木典子さん

「聞き取れない」という不安をドコモのサービスで和らげたい



住友金属鉱山のアビニスは、鉱山開発を行う「資源事業」、高品質な金属素材を生み出す「製鍊事業」、素材に高度な価値を付加する「材料事業」です。地域に根ざした事業も多く、地元・社会と共にしながら操業することは私たちのビジネスの大前提です。例えば拠点の一つであるフィリピンでは、HPAという製錬技術で低品位の鉱石からニッケルを回収するなど、資源の有効活用に努めています。また、製錬の残渣を適切に堆積管理し、その場所を植林で緑化するなど、環境保全にも取り組んでいます。今後も、本業を通して社会に貢献し、SDGsの達成につなげていきたいと思います。

NTTドコモが掲げる「For ONEs」は、そんな一人ひとりが自分らしく生きられる社会を実現するための活動、耳の不自由な方のためのアプリ「みえる電話」もその一例です。文字でのコミュニケーションが盛んな現代でも、宅配便の再配達や病院の予約など、電話による通話が必要な場面は少なくありません。音声と文字がリアルタイムで変換される「みえる電話」で、電話への不安軽減をサポートしたい。NTTドコモは今後も、「一人ひとりのために」様々な活動を続けていきます。

### 【紙上採録】

## 大学 SDGs ACTION! AWARDS

~共想が創る未来社会へ~



秋田大学/秋田キャンパスネット 阿部信吾さん  
**東南アジアの都市鉱山ビジネスの調査**

カンボジアをはじめとする開発途上国の廃棄物最終処分場、いわば「ゴミ山」には「ウェイストピッカー」と呼ばれる人がいます。彼らはアルミ缶や鉄スクラップなどの有価物を集め換金生活しています。こうした人々が、子どもを含めて世界には約1500万人もいます。実際に僕らも現場へ行きましたが、鼻に突き刺さる臭いと大量のハエには本当に驚かされました。

提案したいのは、このウェイストピッカーの組織化です。地域の廃棄物の約20%ものリサイクルに寄与している彼らを廃棄物管理システムの中に組み込むことができれば、都市鉱山ビジネスの発展に加え、貧困問題の解決にもつながります。



徳島大学/狩獵同好会Revier Jagt 高橋優子さん  
**ジビエ・ビジネスで里山の生態系を守る! クラウドファンディングによる新たな市民参加**

いま、徳島県ではニホンジカ等の鳥獣害による里山の生態系の破壊が深刻化しています。対策として、ハンターによる捕獲が行われていますが、個体の多くは破棄されているうえ、捕獲に関する費用は私たちの税金です。

そこで考案したのが、捕獲したシカ肉を活用したジビエ製品の開発です。シカ肉を資源化できるうえ、その利益をハンターの収入や処理費用に充てれば、野生動物マネジメント体制の構築に寄与できます。試作品として、大学祭でシカ肉のソーセージを販売したところ、250本完売でした。

資金調達の方法としては、市民を広く巻き込むことのできるクラウドファンディングの活用を提案します。



下川町賞  
青森大学/自然サークルSDGs  
ワイバ・ゴビンダさん・喜来大智さん  
大学の森林資源の活用と大学施設のエコハウス化

青森大学やその母体である青森山田学園が有する森林資源・施設を活用した自然体験活動を提案します。例えば、手入れの行き届いていない山林での木ごり講座・薪ストーブやソーラーシステムによる旧教員住宅のエコハウス化などを実施したいです。

立命館大学/Sustainable Week実行委員会 切田澄さん  
**宗教の違いを超えて食べることができるSDGsカレーの開発**



立命館大学Sustainable Week実行委員会は昨秋、びわこ・くさつキャンバスでSDGs体験型イベントを開催しました。盛況でしたが、「大学生のSDGsの認知がまだ低い」「様々な文化に対応する企画に欠ける」などの課題も見つかりました。そこで今年の「Sustainable Week 2018」開催に向けて、私たちは「誰一人取り残さないSDGsカレー」という企画を考えました。これは、誰にとってもなじみ深いカレーを通してSDGsを理解してもらうという、いわば啓発ツールでもあります。

メニュー開発にあたっては、すでに留学生らにヒアリングし、第1回の試作を終えたところです。宗教ごとに異なる食のタブーのほか、アレルギーにも配慮しています。パッケージデザインは、滋賀の美術大学に依頼。販売は、障害者雇用資格認定機構(HEQE)に協力いただきます。さらに、いすれは商品化し、地元の市民団体協力のもと滋賀県草津市の特産品として売り出すことと考えています。レトルトパウチにすれば非常用食品としても役立つでしょう。

SDGsカレーを食べてもらうことによって、多くの人にSDGsへの理解を深めたら、そして、これからも私たちのできる範囲で少しずつ社会を変えていくならと思っています。

SDGsワークショップ  
最終審査のプレゼンテーション後には、いま話題の二つのワークショップを開催。約150人が参加した。



▲ 井澤友郭さん  
(ごども環境環境会議推進協会事務局長)

レゴを作って見えてきた「誰一人取り残さない世界」

国内外の企業・自治体でも実践されている「レゴ®シリアルアプレイ」を活用したワークショップ。この日のテーマは、SDGsが目指す「誰一人取り残さない世界」。レゴで自分しさを表すと?「自分らしい生き方を邪魔している壁って?」—進行役の井澤友郭さんに導かれて、真剣にレゴと向き合う参加者たち。「自分も壁の一部かも」「壁の向こうとこっちはつながっているね」等、創作後の対話を盛り上がった。また中盤では、NTTドコモの担当者が、一人ひとりが自分しさを発揮できる社会の実現を目指すCSR活動「For ONEs」について紹介した。



▲ 川崎直さん  
(IEE公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長)

聞いて話して書き出す「円卓」で生まれた熱い思い

段ボール製の不思議な円卓を6人1組で囲んで始まったのは「えんたくんミーティング」。ファシリテーター・川崎直さんに誘導され、参加者たちはこの日のプレゼンやSDGsへの思いを次々と語り出した。「自分も他人も幸せになることがSDGs」「SDGsを知る入り口をもっと増やさなければ」「世界のことを考えているつもりが自分を見つめ直す機会にもなった」など、初対面とは思えないほどミーティングは白熱。終了後、ぎっしりと書き込まれた円卓を囲んで、記念撮影する姿も見られた。

## 私たちができること



### オーディエンス賞

東京大学 尾川達哉さん  
ひとり親の障害を子どもの障壁にしない「もう一つの家族バンク」創設

日本ではいま「親に障害のあるひとり親家庭」が、制度のすき間で社会から孤立しています。経済的貧困と子どもの「経験の貧困」を解消すべく、長期休暇中に預かる、学校行事に参加する、寄付をする等、様々なサポートを担う「家族バンク」創設を提案します。

### 審査員特別賞

福島県立医科大学/POMk Project 橋 和馬さん  
小学生を対象とした人体や健康に関する体験教室の開催

人体・健康に関する小学生対象の体験教室の開催を提案します。授業内容は、ベットボトルを使った肺の模型作りや血压測定体験など、医学生が「医師」「教育現場」「小学生とその家族」の懸け橋となることで、社会全体の持続的な健康増進を目指します。

### 最終審査に進んだファイナリスト

鹿児島県立医療大学/Energy for All (齋藤元文さん・酒井彩乃さん)  
3Dプリンターで作るトイレットペーパーホルダー用の小型発電機の開発

鹿児島県立医療大学/学習院女子大学/笑下美登 (高松宗々さん・藤原千咲さん)  
SDGs普及のための教材「笑って学ぶSDGs」の作成

立命館大学/EDGE SPROUT (森田崇文さん・酒井隼人さん)  
安心・安全な自動車利用を実現する「ANSHINブレーキ」の開発

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

耳が聞こえづらい方の通話をサポートするアプリ「みえる電話」。

通話相手の話す言葉がリアルタイムで文字に変換され、右の写真のように、スマートフォンの画面に表示されます。

例えば、宅配便の再配達依頼から、ガスや電気のトラブル対応、WEBでは予約できないレストランの予約など電話での対応が必要な場合は、意外に多いものです。

聴覚に困難を抱える700万人以上の方々に、もっと安心で、より豊かな暮らしを届けたい――。

「みえる電話」アプリは、一刻も早い提供開始を目指して取り組んでいます。



## For ONEs

世界は、それぞれ多様な個性を持った一人ひとりの集合です。

そんな一人ひとりが、個性を活かし、自分らしく生きることができたら、社会はさらに豊かで活力のあるものになるのではないかでしょうか。

いろんな制約があって自分らしさを発揮できないでいる方々に、ドコモのテクノロジーの力で、寄り添い、支え、活動の場を開いていく。その一つとして、聴覚が不自由な方のコミュニケーションを支えるため、通話サポートアプリを提供しています。

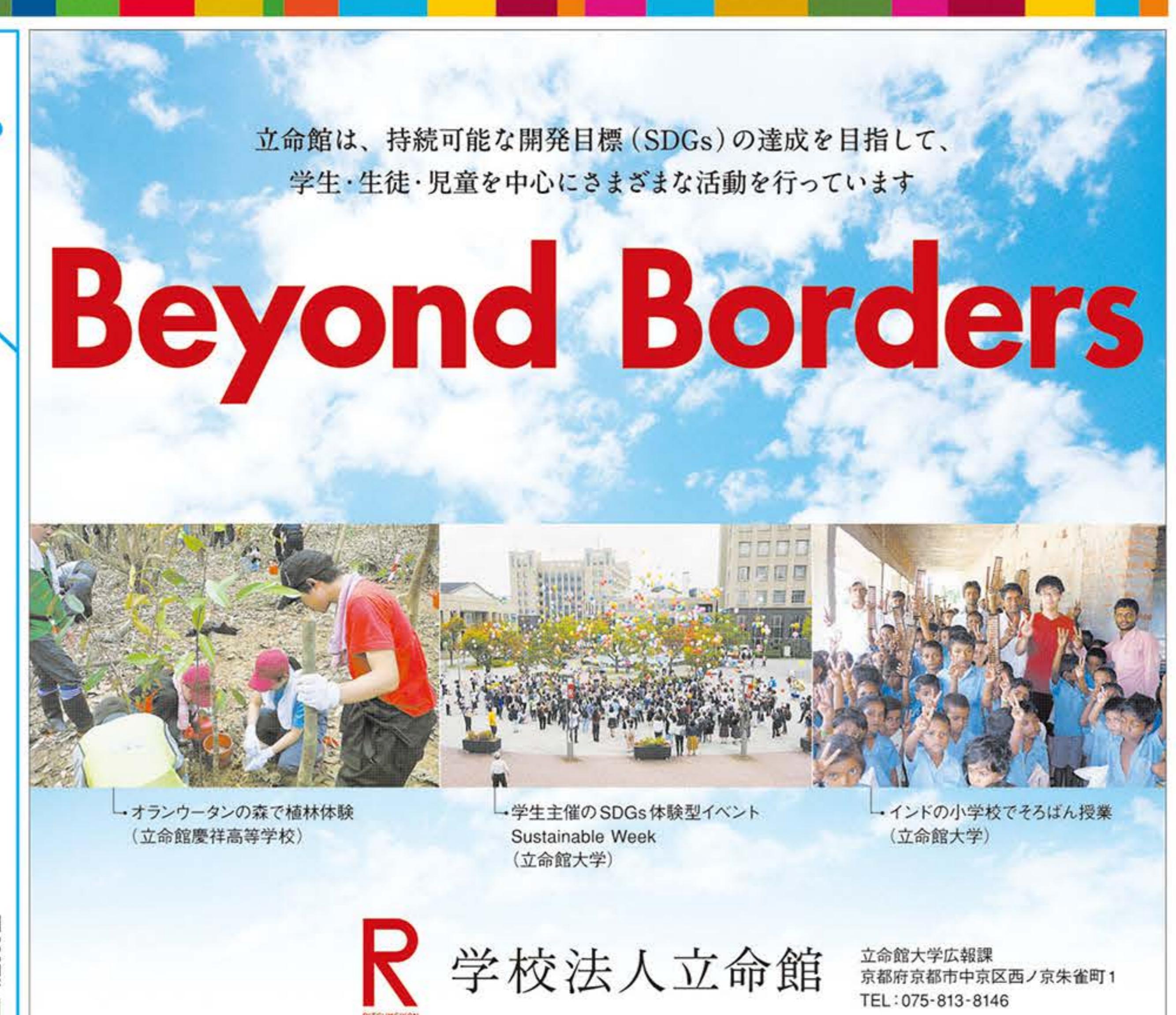
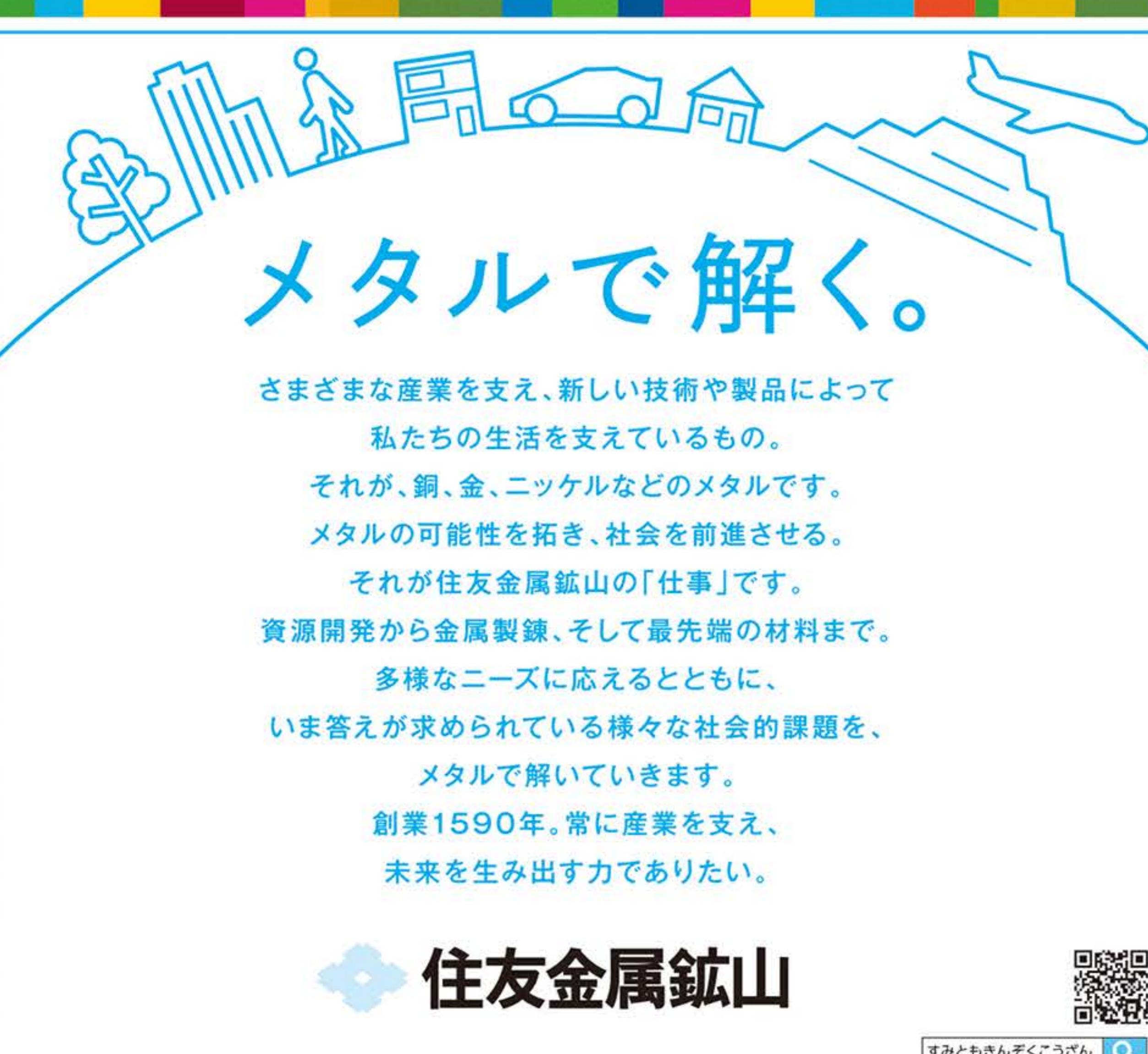
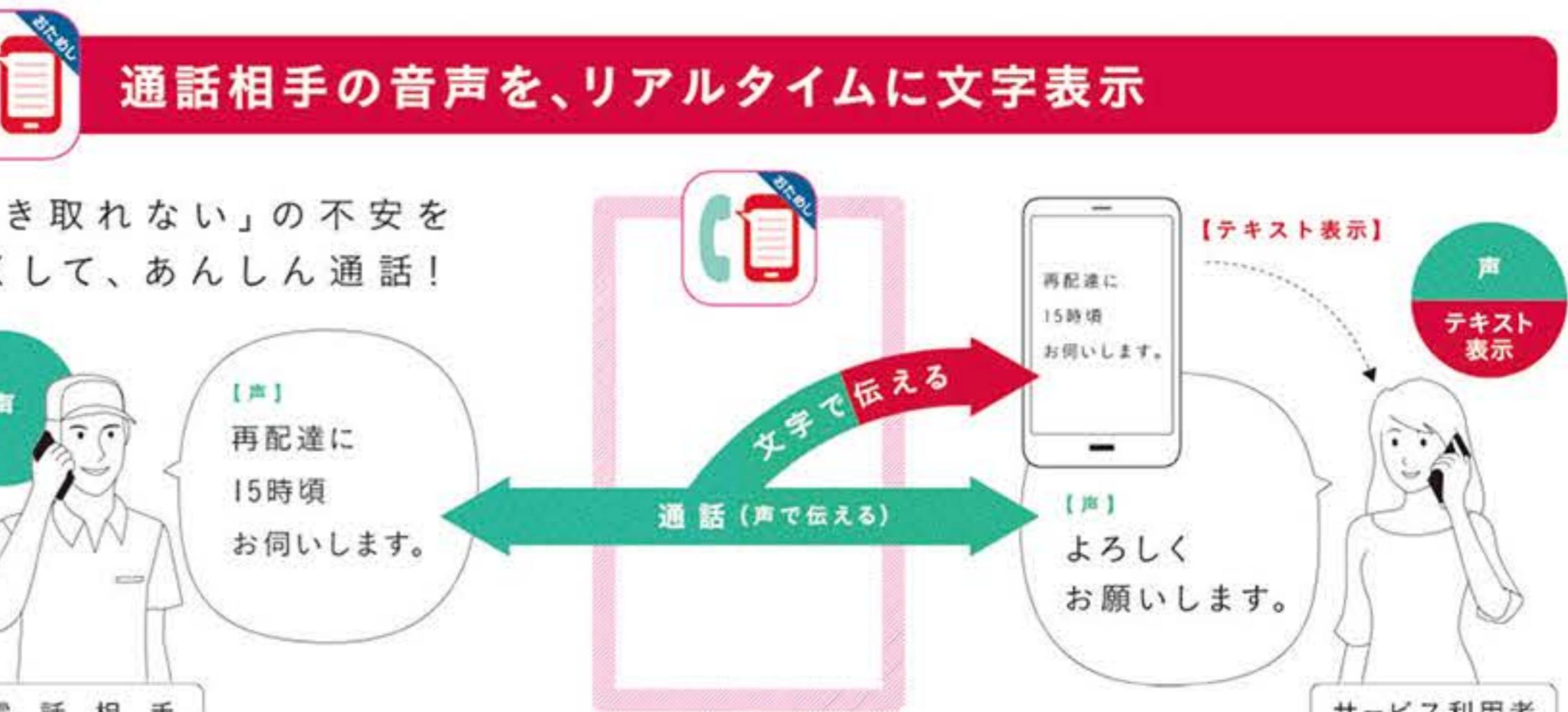
NTTドコモは、CSR活動「For ONEs」を通じて、一人ひとりが自分らしさを発揮できる社会を目指し、より豊かな明日の実現に貢献します。

いつか、あたりまえになることを。

NTT docomo

### 通話相手の音声を、リアルタイムに文字表示

「聞き取れない」の不安を無くして、あんしん通話!



いつか、あたりまえになることを。

NTT docomo